



睦合小学校
ふれあい学級
(12ページ参照)



西川町 議会だより

2010.1.15

71

- ・新年のごあいさつ 2
- ・12月定例会 3
- ・一般質問 4~8
- ・議会のうごき 9~11
- ・「究める・人」シリーズ No.11 洋ラン栽培 12

発行 山形県西川町議会

春 賀

新年のごあいさつ

議長 黒坂 久一

新年あけましておめでとございます。

世界的不況により日本経済が冷え込み、デフレ現象などによる税収の落ち込み、政権交代での事業仕分けなどで新年度の予算の動向が不透明な状況です。加えて新型コロナウイルスエンザの流行など先々が見えない年明けとなりました。

4月に告示される町長選挙では、新たな大黒柱を選択しなければなりません。町民は大きな変化を求めているのだからかと考えるとき、第5次総合計画の中期実施計画を着実に進めていくことが議会としての責任でもあります。

本町議会の議員定数が10人となって2年8か月が過ぎました。議会の活性化や運営について、いろいろな論が出ていますが、振り返り検証し、あるべき姿を検討していく時期でもあると感じています。

議会はあらためて、二元代表制での議会の役割を十分に発揮し、あくまでも町民のための議論がなされる場であることです。

年を新たにし、議会としての責務を果たす努力をしてみたいと思いますので、町民の皆様のさらなるご支援をお願い申し上げます。



近松町長が勇退を表明！

今春4月の町長選挙には出馬せず

12月8日から10日までの3日間、平成21年第4回定例会を開きました。定例会のなかで近松捷一町長が今期限りでの勇退を表明しました。

定例会では、請願4件を全員賛成で採択し、議員が提出した3件の意見書を全員賛成で可決しました。また、町長が提出した人権擁護委員候補者の人事案を原案のとおり可決、さらに、1314万円を追加し、総額を56億878万円とする一般会計補正案は賛成多数（賛成7人、反対2人）で、国民健康保険など4特別会計並びに水道事業会計の補正予算案は全員賛成で、それぞれ原案のとおり可決しました。

一般質問では、5人の議員が町の政治・行政について町長の施政方針をただしました。

『引き際を誤らない』

自身の政治信念で勇退を表明

定例会最終日の12月10日、すべての議案の審議・採決が終わった後に、近松町長が「3期目への出馬はない」と今期限りでの勇退を表明しました。

近松町長は、平成14年4月の町長選挙で新人同士の一騎打ちを制し初当選、18年4月には無投票で再選を果たし、現在2期目で70歳。22年4月19日で任期満了となります。

定例会2日目の12月9日の一般質問では、2人の議員が「3期目に挑戦し、引き続き町政を担うべきでは」と3期目への出馬の意向をたどしました。これに対し近松町長は「後援会のみならずと十分話し合っ、早い機会に進退を示したい」と態度

を明らかにしませんでした。

【関連記事4、8ページ】

しかし、近松町長は翌10日、

定例会の最後に、「町長に就任したときに、引き際を誤らないようにすることを自分の心に誓った。気力、意欲、体力を充実させ職務に専念できるのは、私

の場合は70歳までと考えている。任期を全うするまでは町民の期待に応えられるようにトップリーダーとして職員をまとめあげ

る勢いを保って職務に専念することを誓った」ことを明らかにし、「これは私の政治信念であり、後援会のみならずにもご理解をいただいた」として勇退を表明しました。

町長選挙は4月6日に告示され、4月11日が投票日となります。

請願採択

◆日米FTA（自由貿易協定）
反対、農家経営の危機打開を
求める請願書

提出者

農民運動山形県連合会

会長 花鳥賊義廣

紹介議員

渋谷雄三郎

◆肺炎球菌ワクチンへの公費助
成に関する請願書

提出者

山形県保険医協会

理事長 國井兵太郎

紹介議員

渋谷雄三郎

◆水田農業政策の確立について
◆日本農業を守る貿易交渉対応
について

提出者

さがえ西村山農業協同組合

代表理事組合長 今田 正夫

さがえ西村山農協農政対策協議会

会長 今田 正夫

紹介議員

宮林 昌弘

人事

◆人権擁護委員候補者
佐藤正子さんの推薦に同意

平成22年3月31日で任期満了となる人権擁護委員の候補者に、引き続き佐藤正子さん（間沢）を賛成多数で同意しました。

人権擁護委員は、町長が推薦した方を法務大臣が委嘱します。本町には4人の委員がおり、住民の自由・平等の権利が侵犯されることのないように監視し、もし侵犯された場合には、その救済のため、すみやかに適切な処置をとるとともに、常に自由人権思想の普及高揚に努めることを使命としています。



平成22年4月の町長選挙で 3期目に挑戦し、町政を担うべきでは

町長…後援会のみなさんと十分話し合って決断します



答弁する近松町長



古澤俊一議員

近松町長は、平成14年4月の初当選から、町民の声に耳を傾け、明るい夢のある町民本位のまちづくりを基本に、努力と英断で重要課題を解決してきたと考えますが。

初当選から2期8年が経過し、ようとしていますが、議員各位をはじめ多くの町民の皆様からご理解とご協力を賜り、敬意と感謝を表します。

近松町長の業績としては、西川小学校建設事業を進めたこと、人口集積地の形成をはかるために役場庁舎南側の開発等を推進したこと、さらには総合的な雪対策の手立てを推進するなどして生活環境面を充実させたことなどがあると考えますが。

月山と水にこだわったまちづくり、広域観光の推進、町民主役のクリー

ンな町政、行財政改革の推進、西川町らしい教育行政の推進、農林業および産業の推進、お年寄りが安心して若者が夢をもって暮らせるまちづくり、少子化対策、過疎化対策、克雪・利雪対策の公約を掲げ、全力で取り組んできました。

就任して最初に、町民の意見をお聞きし共に考え、町民と行政との協働による自立に向けたまちづくりを基本とする第5次総合計画を策定してから、計画実現のために一歩一歩着実に取り組んできました。

いま解決しなければならぬ重要課題としては、発芽胚芽米月山まんま販売事業のあり方を再検討し方向性を見出すこと、西川小学校開校に伴う既存の9校舎10体育館の活用を明示すること、さらには町内3か所の温泉館や町民スキー場、仁田山放牧場等の公共施設のあり方や方向性を明確にすることなどがあると考えますが。

ご指摘のとおり認識しており、全職員で取り組んでいます。



西川小学校建設工事

世界的大不況のおおりでデフレスパイラルにさしかかっているとされているなかで、また、日本では政権が交代したなかで、少子高齢化など今後の不安が心配されます。町長就任から苦難のときをかいくぐってきた経験を活かし、第5次総合計画をしっかり軌道に乗せるために、近松町長は3期目に挑戦し、町政を担うべきと考えますが。

後援会のみなさんと十分話し合っ、一日も早く決断したいと考えています。

【関連記事3ページ】

平成22年度の予算で町民体育館や町民スキー場等の公共施設の補修を行うべきでは

町長…今後のあり方も含め検討しています



池上 博 議員



町民スキー場安全祈願祭

国の財政は、平成21年度の法人税等の税込不足が9兆円で危機的な状況です。これ以上国債の発行を続ければ日本経済は融資ゼロに陥り、国が夕張市のようになっても不思議ではないと語る経済学者もいます。政府は、地方交付税も事業仕分けの対象とし、先が見えない状況です。報道では、本町の実質公債費比率が20・2%で、18%以上は本町を含めて7町村。借金をするのに県の許可が必要になります。本町では、西川小学校建設に邁進しており、財政面で心配する声が多くありますが。

西川小学校建設など今後の投資事業や起債償還も含めて財政計画を立てており、実質公債費比率を含む健全化判断比率の改善にも取り組んでいます。予算編成のみならず、国および県の動向をしっかりと見極め、今後の

財政運営を行っていきます。

町民は、現在ある公共施設の補修を心配しています。利用者が多く唯一の避難場所である町民体育館については、安全・安心の面からも、屋根の雨漏りや高窓枠の腐食の補修、また、町民スキー場については、管理棟の屋根の腐食や軒天の補修を行うべきでは。

間沢地区の第一次避難場所は町民グラウンドです。町民体育館の補修には相当の金額が予想されますので、時期や財源等を含め計画的に行う考えです。町民スキー場については今後のあり方も含め検討しており、修繕についてはそれを踏まえて考えていきます。

西川小学校を第一次避難場所と指定することについては、多くの町民が理解できないと思っていますが。

本町では現在、避難場所14か所、避難所開設場所15か所を指定しています。海味地区では、第一次避難場所が役場駐車場で、

避難所開設場所は西山小学校です。建設中の西川小学校は、耐震構造でもあり、開校時には避難所開設場所に指定する予定です。

雇用促進住宅については、村山市でも低所得者などに配慮し購入します。本町でも若年労働者と低所得者の定住促進のために睦合宿舎の購入予算を検討すべきでは。

若者の勤労者や低所得者のための定住促進のための施設としての必要性は理解しますが、これから進めようとしている人口集積地の住宅団地整備などなかで定住促進対策を考えています。



町民体育館と町民スキー場

寒河江ダムを観光面でもっと活用できないか

町長…『寒河江ダムの日』の設定とダム湖面や管理用道路の利活用は検討していきます



寒河江ダム洪水吐き



宮林昌弘 議員

寒河江ダムは、平成2年11月20日の11時20分に竣工式を挙行してから、平成22年で早20年になります。多くの方から愛され親しまれるダム湖をめざし、花火大会に変わるイベントや観光面で活用するために質問します。

寒河江ダム完成20周年を記念して、11月2日を『寒河江ダムの日』に設定し、洪水吐きから観光放流したいと最上川ダム統合管理事務所長が提案していますが、町長の見解は。

町民はもとより下流市町村など多くの方々からダムへの理解を得て、ダムのみならず本町の情報発信と交流を推進し、ダムを活かした地域の活性化を一層はかためていくために、『寒河江ダムの日』の

設定について、所長と協議をしながら検討していきます。

ダム湖の観光利用について、ドラゴンカヌーや周遊船、ボートを常時浮かべ、大噴水を見せれば、112mの豪快さと迫力が実感できると考えますが。

ダム湖の利活用については、最上川ダム統合管理事務所をはじめ関係7団体で年2回、月山湖周辺地域づくり懇談会を開催し検討しています。湖面活用については、恒常的な観光事業には人的な配置等課題も多く、現在ではイベントでの活用にとどまっています。



月山湖夏まつり巡視船体験乗船と大噴水

ダム右岸の管理用道路を各種イベントで活用するために、駅伝マラソンコースとして再び利用することや、森と湖に親しむ旬間にダム周遊町民ウォーキングやダム湖マラソンなどいろいろな利用方法がありますが、観光面の利活用についての見解は。

ダム右岸の管理用道路の活用については、以前にウォーキング等でも利用しましたが、安全性の面もあり継続できなかった経過もあります。

今後、一般開放と毎年継続的にウォーキング等を中心としたイベントができないか関係機関と検討していきます。

山村留学による都市部との 教育交流活動の検討を

教育長…当面は西川小学校の経営に全精力を注ぎます



青山知教 議員



小中連携授業

人の交流は、やがて観光交流や農産物流となり大きな波及効果が期待されます。西川小学校の開校に伴い閉校される校舎を利用して、都市部の子どもや親たちとの教育を通じた交流活動としての山村留学を検討すべきでは。

山村留学を否定しませんが、具体的に検討した場合、留学生は不登校、障害、一般児童生徒なのか、宿泊先は里親制なのか、宿泊兼用の場合の改修費用等、多くの課題があると捉えています。

当面は、西川小学校の円滑な経営に全精力を注ぎたいと考えています。

本町がめざす小中一貫教育は、単に本町だけではなく、全国に「西川町の教育を学びにお出ください」とのメッセージを発信できるような教育をめざしていくべきと期待しますが、取り

組み状況は。

平成19年度の西川中学校の指定から始まり平成21年度まで、西川小学校、睦合小学校を小中連携推進校として加え、小中学校の教職員による相互乗り入れの授業実践や児童生徒の交流活動実践を重ねています。教職員も、9年間の義務教育を通しての人間の土台づくりを意識し取り組むことが重要と考えています。

西川小学校の開校に伴い地域社会のなから姿を消す学校施設の利活用が町民の大きな関心事になっていますが、検討状況は。

利活用対策はプロジェクト会議で検討していますが、山村留学も含めた多くの案を検討しています。しかし、町主導や民間ベースでの有効利活用は採算面、投資対効果面等で困難な状況と判断しています。まだ検討の途中で、西川小学校開校までには、学区民等の意見、要望をお聞きし取りまとめたいたいと考えています。

地域防災計画にもとづき諸整備が進められていますが、西川小学校の開校に伴い閉校される校舎を利用して、本町の防災、防犯の拠点となる防災センターの設置を検討すべきでは。

災害時の対策本部設置場所として、役場会議室と交流センターあいべ内の2か所を定め、状況に応じ設置することになっていますが、先の防災セミナーに参加し、大規模災害時に、救援物資、支援者、駐車場等、本部1か所だけの対応では支障をきたすと感じたことから、万が一の場合を想定し、閉校後の校舎利活用も一つとして検討していきます。



総合防災訓練

平成22年度の予算編成は 定住人口の維持確保に最大の力点を

町長…若者の定住対策のさらなる施策の充実をはかっていきます



渋谷 雄三郎 議員

所得の向上と定住人口の維持に最大の力点を置いた第5次総合計画の中期実施計画が平成22年度、最終年度になります。また、平成22年度の重点事業は、

4つのプロジェクトに主要事業を配置し、進捗率は平成20年度分が約80%、平成21年度分が10月末で約45%と見込んでいます。

平成22年度の重点事業は、町民等との協力の推進、新たな観光戦略の構築、農産物の量的拡大、西川小学校建設、

住宅団地整備などです。

認定農業者と農業委員の懇談会の意見をどう捉えていますか。

また、農業委員会の建議書についての見解と、平成22年度予算にどのように反映させる考えですか。

認定農業者との懇談会は、例年年度末に開催していましたが、農

業委員会では、農業行政についての意見を予算に反映したいとすることで予算編成前に開催し、さらに建議書の提出も同様の対応を行っており、意見等は平成22年度予算編成のなかで検討します。

平成21年9月に町が実施した住宅団地造成などの町民アンケート調査の結果は。また、今後の進め方は。

西川小学校の建設や建設場所雇用促進住宅睦合宿舎についてもアンケート調査をすべきだったのでは。

集計結果は、配付資料のとおりで、分析とまとめの作業を行い、町民が必要としている雪対策、保健医療福祉対策、産業振興、就労の確保、若者の定住対策のさらなる施策の充実をはかっています。

町民のご意見をいただくものは、その都度お話をしご理解をいただいています。

これまでの、町および協議会で決定し、予算を執行してから都市計画審議会を開催し、あり方

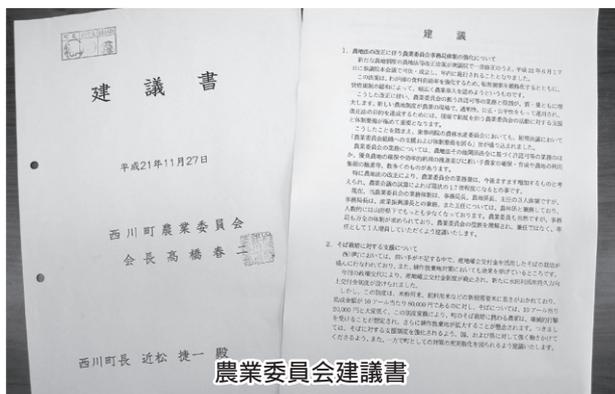
が先の審議会で取り上げられましたが、今後の対応は。また、平成22年4月の町長選挙にあたり近松町長の考えは。



にしかわ保育園ふなの森発表会2009

現行の法の下での審議会開催は、計画の具現化をはかるにあたり、ある程度、町の方針が確定した段階で付議されることとなるため、会議のなかで町民の声を反映し検討していくためには、現在の委員構成のこともあり、今後、会議のあり方など条例改正も含め検討していきます。

町長選挙については、後援会のみなさんと十分話し合っており、早い機会に進退を示したいと考えています。【関連記事3ページ】



農業委員会建議書

議会のうごき



臨時会

11月27日(第4回)

◆給料、期末手当等を引き下げ

議会議員のほか、町長、副町長、教育長の特別職および一般職の職員の期末手当等の年間支給月数を4・45か月から4・15か月に引き下げるとともに、一般職の職員の給料を平均0・2%引き下げ、月額3千円の持ち家の住居手当を廃止する条例案を、特別職の条例案は全員賛成で、一般職の条例案は賛成多数(賛成8人、反対1人)で、それぞれ原案のとおり可決しました。これに伴い一般職の職員の平均では年間約12万5千円の減額となります。

◆意見書を可決

発電用水路で地域が分断されている影響緩和のために国から交付されている電源立地地域対策交付金が、平成22年度末で交付期限を迎えることから、議員が提出した延長等を求める意見書を全員賛成で可決しました。

12月24日(第5回)

◆西川小学校厨房設備購入契約

電気立体炊飯器などの購入について、賛成多数(賛成7人、反対2人)で次のとおり決まりました。

金額 4147万5千円

相手方 ㈱中西製作所山形営業所(山形市上町四丁目1番36号)

◆小中学校用地上デジタルテレビ、電子黒板購入契約

地上デジタルテレビ(50型25台、37型6台)および電子黒板(6台)の購入について、全員賛成で次のとおり決まりました。

金額 1029万円

相手方 ㈱吉見電器店(西川町大字海味86番乙号地)

◆教職員用コンピュータ(ノート型パソコン)購入契約

42台の購入について、全員賛成で次のとおり決まりました。

金額 733万7400円

相手方 東日本電信電話㈱山形支店(山形市本町一丁目7番54号)

常任委員会

総務厚生常任委員会

12月8日

◆請願の審査

12月定例会で付託された次の請願を審査し、全員賛成で採択としました。

「肺炎球菌ワクチンへの公費助成に関する請願書」

◆所管事務調査計画

町の財政状況を示す健全化判断比率および資金不足比率、病院事業会計決算の指標について調査することを決定しました。

12月24日

◆健全化判断比率および資金不足比率調査

地方公共団体の財政を適正に運営することを目的として、平成19年度決算から実質公債費比率および将来負担比率などの財政健全化にかかる各指標の公表

などが義務付けられ、本町の平成20年度決算では健全段階にあります。各指標の算出方法などについて総務企画課長から説明を受けました。

意見交換では、「人口減少が進んでいるなかで将来、市民の負担増とならないような財政計画を作っているが、市民にもその現状をお知らせしていくべきではないか」などの意見が出されました。

◆病院事業会計決算の指標調査

病院事業の病床利用率などの経営分析指標および経常収支比率などの財務分析指標などについて病院事務長から説明を受けました。

病院事務長からは「平成20年度決算の経常収支比率が101・2%で黒字経営となっているが、病床利用率が55・5%で目標の60%に向けて努力したい」との説明がありました。

意見交換では、「職員のさらなる資質向上に努めることが指標につながるのではないかなど」の意見が出されました。

議会のうごき



にしかわ保育園ぶなの森発表会2009

産業建設常任委員会

11月24日

◆町道認定申請の採択された認定状況追跡調査

本町議会では、平成元年から現在までに、30路線の町道認定申請を受理し、すべて採択とされていますが、その認定状況について、建設水道課長から説明を受けました。

30路線で町道に認定されていない路線が8路線（うち1路線は一部認定）あります。その理由について建設水道課長からは「町では、道路認定要綱を定め、町道認定審査会で検討し、認定する路線を議会に上程している。認定していない路線は、地形等の状況から経費の面で改良等が可能な路線や農道として整備し受益者が決まっている路線、また、5世帯以上からなる集落と幹線道路を連絡する道路などの道路認定要綱の基準に合わない道路である」との説明がありました。

意見交換では、「町民が安心して暮らせることを考え、町道認定し、町道認定審査会の検討

結果は、議会に報告すべきではないか。また、町道認定した後でも、社会情勢の変化等で廃止することも必要なのではないか」などの意見が出されました。



町道認定状況調査

◆プレミアム付商品券発行事業調査

町内購買力を高め商業活性化のために、商工会で実施したプレミアム付商品券発行事業について、商工会から説明をいただきました。

商工会からは「4月16日から1セット1万2千円の商品券を2千セット販売、約480世帯の方が購入し、2日間で完売した。地上デジタル放送が開始さ

れていることもあり、テレビを購入された方もいたと推測されるが、食料品や日用品の購入に使われた方が多かった。これから決算期を迎え、商業関係者は、町内で2400万円が使われた成果を実感すると思う。見直すところは見直しながら継続していきたい」との説明がありました。

12月定例会で付託された次の請願を審査し、全員賛成で採択となりました。

◆請願の審査

「水田農業政策の確立について」「日本農業を守る貿易交渉対応について」

また、9月定例会で継続審査とした「日米FTA（自由貿易協定）反対、農家経営の危機打開を求める請願書」を全員賛成で採択しました。

◆所管事務調査計画

総合産業化の具体的な戦略、農業政策について調査することを決定しました。

広報・公聴常任委員会

◆西川町議会だより（71号）の編集

- 12月9日（編集会議）
- 12月21日（レイアウト）
- 12月28日（初校）
- 1月6日（二校）
- 1月8日（三校）



プレミアム付商品券発行事業調査

議会のうごき



にしかわ保育園ぶなの森発表会2009

議会運営委員会

■ 11月20日

第4回臨時会（11月27日）の運営について決定しました。

■ 11月27日

第4回定例会（12月8日～10日）の運営について決定しました。

■ 12月21日

第5回臨時会（12月24日）の運営について決定しました。

町村議会議員研修会

◆ 県町村議会議長会創立60周年記念研修会を開催

県町村議会議長会主催の町村議会議員研修会が10月13日、山形国際交流プラザ（ビックウイング）で行われ、9人の議員が参加しました。

昭和24年9月に議会相互の連

携を図りながら、議会政治の正常な発展に期することを目的に、219町村議会議長（現在は22町村）で創立された県町村議会議長会が60周年を迎えました。

創立60周年を記念して開催された研修会では、新しい議会活動と議員活動、鳩山新政権と政局のゆくえについて講演がありました。

大江・西川両町 議会議員協議会

◆ 主要地方道貫見間沢線の整備促進（沼山地内）を県に要望

大江・西川両町議会議員協議会の総会が10月30日、本町議会議員10人、大江町議会議員12人の全議員が出席し、大江町の健康温泉館で行われました。

協議会は、両町の共通の利益開発促進に寄与し、住民福祉のため同一歩調を基盤として、強力に推進することを目的としています。

総会に先立ち、主要地方道貫見間沢線の沼山地内の未改良区

間と、主要地方道大江西川線の大江町の未改良区間並びに改良工事の状況を調査しました。総会では、主要地方道2路線の整備促進を県当局並びに鈴木正法、阿部賢一両県議会議員に要望することを決定しました。



主要地方道改良工事状況調査

行政調査に 来町された議会

◆ 鮭川村議会

11月6日、遊休公共用地および町内空き家利用による定住促進地を調査するため、議会議員5人と村職員3人、議会事務局職員1人の9人が来町されました。

◆ 宮城県丸森町議会

12月2日、議会改革の取り組みやバイオマスタウン構想、大井沢区の元気を創る会の活動を調査するため、議会議員4人が来町されました。

平成21年1月から12月までの1年間で3議会、19人（前年は4議会、37人）が行政調査のため来町されました。環境問題への関心の高まりで、バイオマスタウン構想の調査が2議会ありました。

洋ラン栽培

夢はオリジナル品種の栽培

山内 正義さん (60歳)
(本道寺町内会)



毎年、洋ランが咲き始める2月下旬になると、一足早く我が家に春が訪れます。日本では、秋の菊を最後に冬に咲く花がないので、冬に花を咲かせたいと洋ランの栽培を始めました。白銀の世界のなかで咲き乱れる花を見ることができなのが洋ランの醍醐味です。

役場に勤め始めた昭和43年、親父が熱心だったサツキ栽培を手伝い始めましたが、手伝いでは満足できなくなり、自分でサツキを購入し、栽培するようになりました。生来、園芸が大好きで、現在は、洋ランのほかクンシランなど約30種類の花卉、園芸を楽しんでいます。町の高齢者大学の園芸教室でも昭和61年から、花や盆栽の育て方などについて講師をさせていただいています。

洋ラン栽培を手がけたのは、昭和46年で、かれこれ40年になります。洋ランには、シンビジウム、カトレア、コチョウランなど約30種類がありますが、1千鉢以上を栽培しています。鉢を置く環境、水、肥料、土のすべてが揃わないと花が咲きません。また、夏には屋外に棚を作った外の空気を吸わせ、秋に

なるとハウスに移動させるという作業が欠かせませんが、この移動が一番大変です。品種によっては直射日光を好むものとそうでないものがあります。自分で交配して、種をまいてから花が咲くまで、早くても5年はかかります。

日照時間が短い雪国では、洋ラン栽培は難しく、近隣でも栽培している方は少ないです。参考書を見ながら、自分でハウスを建て、暖をとる設備も試行錯誤してきました。燃料費もかさみ、園芸全般で年間約20万円がかかっています。

勤めているときは毎晩、晩酌の後、10時頃まで園芸の手入れをやっていました。勤めを辞めて2年になります。いまでは一日中といったところです。

家内も感化されたのでしょうか、冬になると洋ランが咲くのを楽しみにしているようです。多少は出荷していますが、家族で観賞するために栽培しているようなものです。鮮やかな洋ランの花とともに、家族の笑顔を見ると意欲が湧いてきます。世界に一つだけの自分のオリジナル品種をつくりたいといま夢中になっています。

71号の表紙

今日の先生は家族



睦合小学校で11月21日に行われた「ふれあい学級」

1年生は「むかしのあそび」2、3年生は「絵手紙に挑戦」5

年生は「包丁の使い方になれよう」など、家族といっしょの授業を体験しました。また、母親委員会手作りのおやつをいただきました。

睦合小学校は、明治42年に創立し、平成21年に100周年を迎えました。校章は、睦の文字を桜の花びらで囲んだデザインで、昭和17年に制定されました。

編集後記

新年あけましておめでとございませう。

昨年、県では「チエンジ山形」をスローガンにして東北初の女性知事が誕生、国でも「政権交代」が功を奏してか、民主党が圧倒的な勝利を収めました。期待と不安が交差する日々が続いています。

世界では、COP15、地球温暖化が重要問題になっています。平成22年を『陰の中に陽を知り、陽の中で陰を知る一年』と読んでいます。

一年でもっとも寒い季節を迎え、体調管理にご留意ください。(古澤 俊一)

議会へのおさそい

皆さん傍聴してみませんか

次回定例会は
3月です

《発行・編集責任者》
議長 黒坂 久一

《編集委員》
委員長 宮林 昌弘
副委員長 古澤 俊一
委員 青山 知教
松田 昌一